

けてもらったし、そのつながりを通じて、いろいろな人に岬町のことを知ってもらうことができた。岬町が元気になっていくためには、まず外の人に岬町のことを知ってもらうこと、来てもらうことが大事だと思うので、それが少なからず出来つつある」と自信を見せる。

岬町の町民にも、「Re-Liveに言えば休耕地を管理してくれる」という認識が少しずつだが、広まってきている。現在は、町内で合計約7,000平方メートルの耕作放棄地を管理し、様々な事業で活用している。事業を始めてまだ数年しか経っていないが、着実にその活動の認識は周囲に広がってきている。

(2) 課題

現在のRe-Liveは、5人の従業員と「いにしき」の8人の作業スタッフで各々の業務を分担して行っているが、「人が足りない」ことが、大きな課題となってきている。「つながりができ、いろいろな事業者さんからいろいろなお話をいただいているが、人が足りなくてそこまで手が回らない」ため、今ある業務以外の新しい取り組みがなかなかできにくい状態となっている。よって、いろいろなアイデアを具体化できる、また岬町への思いを共有してくれる人が現れるまで、従業員の募集を続けていくこととしている。

5 今後の展望

リモコン農園は、ITを活用することにより、利用者の物理的、距離的な制限をなくすことができるという特長がある。現在の利用者は大半が大阪市内を始めとした関西圏であるが、この特長を生かし、松尾さんは、「今は東京や他の地域とのつながりがあまりないが、岬町の畑を東京の人が耕すというのも面白い。より多くの人に岬町のことを知ってもらうためにもより広範囲の人たちにリモコン農園を利用してもらいたい」と抱負を語

る。そして、リモコン農園のような「農業×福祉×IT」に限らず、そのシステムを活用し、「〇〇×福祉×IT」、「農業×〇〇×IT」「〇〇×〇〇×〇〇」など、新しい事業の話が現在進行中であるということだ。そうした今出来つつある様々なアイデアを形にすることができれば、また世の中に新たなビジネスモデルを構築することが可能となるかもしれない。

空き家の管理についても、「空き家も資源だと考えているので、なんとか引き継いでいきたい」という思いで管理し、さらに有効活用していくことを目標としているが、なかなか声がかからないというのが現状のようだ。しかし、今後はこれに関しても「実績を残していきたい」と考えている。

また、福祉分野にもより一層力を入れていく方針であり、町内のニートやひきこもりの若者を対象とした相談事業も現在準備中ということだ。この種の相談所はまだ町内にはない。しかし、これもやはり、「今は地域に埋もれているが、将来のことを考えると、彼らも町の資源と考えられるのではないかと。そうした人材をしっかりと掘り起こしていきたい」という考えがもとになっており、この課題解決が長い目で見れば、岬町のためになると考えているのだ。介護や認知症、高齢者に関する福祉についても、「現在はそれらは全部点と点でしか存在していないが、それらをつなげて面として見て、包括的な形でそれぞれを連動させていきたい」と、町の福祉機能自体を変えていくということも進めている。

そして、岬町の課題はいろいろあるが、その多くが「仕事がない」ということに起因する。それによって「若者が外に出て行く」ということに対する松尾さんの危機感は強い。そこで、そうした仕事を求めて町を出て行く若者たちに対して、このRe-Liveでの事業を通じて、「岬町に残るという選択肢を作りたい。岬町にいても働いていける。生活していけるという1つのモデルを作りたい」という思いを持ってやっているとのことだった。それは、ただ単にRe-Liveが雇用の受け皿に

なるということに留まらず、Re-Liveでの事業をきっかけとして、岬町の魅力が町外の人たちに伝わり、そこで賑わいが生まれ交流人口が増えれば、それだけ町内の経済の中で需要が増加することになる。その結果として、仕事が増え、働く場も増えていくという好循環が生まれることを目指している。さらに、松尾さんは着地型の観光イベントなどの事業を通じて「観光で、きちんと仕事が成り立つというモデルを1つ見せていきたい」とも言い、ゆくゆくは「岬町で新しく何か事業を始めようとしている若者から、Re-Liveに相談すればなんとかなるかも、と思ってもらえるような存在になっていきたい」と意気込む。そして、「自分で仕事を作るという意識も醸成していければ」とさらに先も見据えている。

今後、Re-Liveが岬町の資源をどのように活用

し、どういった活動をし、そして、町をどう変えていくのか注目である。



体験農園での収穫

生業づくりを模索中の人に向けてのメッセージ

NPO 法人 Re-Live
理事長 松尾 匡



私が、この事業を進めていく上で一番大切にしているのは、「人とのつながり」です。自分一人では、できることには限界があります。よって、毎回人と会うときは、その人と全力でお話して、そこからどれだけつながりを作ることができるかということを大切にしています。そこから得たものを実践に生かしていくことでまた新たなアドバイスをいただいたり、新たな仕事の話をいただいたりします。そして、人と一緒に何かをしようというときは、自分の利益よりも相手にとっての利益のほうをより優先するように意識しています。そのほうが、長い目で見れば、信頼されることになるし、win-winの関係を築くことができ、自分の利益にもつながっていくと思うことが多いです。

また、やると決めたことはやりきるということも大切にしています。今はまだ始めて間もない段階なので、とにかくまずやってみるということを心掛けています。やってみないと分からないこともあるし、やってみて初めて気づくこともあります。そこで新たなエキスを加えて、また新たな展開が広がることもあります。とにかくやりきる。走りきることです。